

Crescendo

vol.129

M E D I K I T A R T S C E N T E R くれっしえんど

 **メディキット 県民文化センター**
MEDIKIT ARTS CENTER

 **宮崎県立芸術劇場**
MIYAZAKI PREFECTURAL ARTS CENTER

世界が認める若き天才チェリスト
宮田大 Special Interview

「新 かぼちゃといもがら物語」#2
『神舞の庭』

シリーズ<大人のためのコンサート
～なるほどクラシック講座>vol.6

木管楽器の魅力
～宮崎出身のオーケストラプレイヤーによる～



「新 かぼちゃといもがら物語」#2『神舞の庭』



Premium Select Concert#9『宮田大 チェロ・リサイタル』



シリーズ<大人のためのコンサート～なるほどクラシック講座>vol.6



チャイコフスキー演奏会の客席で

11月11日、今年の秋のUMKクラシックスはチャイコフスキーを堪能いただくプログラムでしたが、私は交響曲第六番「悲愴」を初めて聴いていささか驚きました。コントラパスの囁くような低音で始まる第一楽章、そしてゆったりと物静かに誰かが去っていくような第4楽章。テンポのよい主題の演奏で始まって、やはり速いテンポでたたき込むように演奏を重ねて終わるのが交響曲だという常識を完全に否定する曲の様だったからです。この「悲愴」がチャイコフスキーの最後の交響曲で、その初演の数日後に彼が亡くなったという話はおぼろげながら知っていました。自らの死、この世界からの退場が近い、そんな思いを抱きながらチャイコフスキーはこの曲を作ったのだろうか…。隣に座るカミサンにそんな感想を伝えたら、「そんなこと誰も分からないわよ。チャイコフスキーは他の作曲家とは違う曲を作りたかっただけじゃないの」とクールな答えでした。

私は芸術劇場で数年前に聴いたフランスのベルリオーズの「幻想交響曲」を思い出しました。第五楽章までである異例の交響曲でしたが、ベルリオーズは単に毛色の違う曲を作りたかったわけではなかったようです。その時調べたのですが、彼はシェークスピア劇団で英国からやってきた女優にのぼせ上がってこの曲を作ったとか。「若い芸術家が恋い焦がれて自殺を図り、死にきれず夢・幻想を見る。恋した女性も音楽の旋律になって聞こえてくる」といった情熱的物語を五つの楽章に積み重ねて作曲し、実際にその女優と結婚したと言うのです。ですから作曲家が普通とは違う曲を作るときは何らかの個人的な思いを込めているのではないかとカミサンに言うと、「あなたね、想像はいいけど、あまり勝手な物語を作らない方がいいわよ」とあくまでもクールでした。

カミサンが明解に言ったのは「この重厚なオーケストラの音に負けないように演奏しなきゃいけないんだから、文彰くんも相当体力が必要よ、大変ね」というものでした。「悲愴」の前に三浦文彰君が演奏したチャイコフスキーのコンチェルトの感想です。カミサンの言うように体力、筋力をつける必要があるのかどうか、そこまで私にはわかりませんが、共演するオーケストラや指揮者との相性のようなものはあるかもしれない…。フェドセーエフさんとの初共演はどうだったのか、彼が所属する音楽事務所の社長さんに聞いてみました。「文彰くんは、最初あのテンポに戸惑ったと思います。私が過去に聴いた中でも最も遅いテンポでしたから。これも、彼にとって良い経験になったと思います。そうやって成長していくのですね。」三浦文彰君はヴァイオリニストとして新たな課題をみつけたということらしい。世界的な音楽家たちとの共演を重ねて成長する彼のこれからが楽しみと思いつつ…。客席での勝手な感想のやりとり、一部を書いてみました。

公益財団法人宮崎県立芸術劇場理事長 佐藤寿美

Special Interview

世界が認める若き天才チェリスト



今日しか聴けない、
今でしか感じられない
音楽を

〈プロフィール〉宮田 大 みやた だい (チェロ)
栃木県出身。3歳よりチェロを始め、9歳より出場するコンクール、第74回日本音楽コンクールを含む、すべてに第1位入賞を果たす。2009年、第9回ロストロポーヴィチ国際チェロコンクールで日本人として初優勝し、注目を集める。第6回齋藤秀雄メモリアル基金賞、第20回出光音楽賞、第13回ホテルオーケラ音楽賞など華やかな受賞歴を持つ。第35回江副育英会奨学生、ローム・ミュージックファンデーション奨学生、桐朋学園音楽部門持待生、桐朋学園大学ソリスト・ディプロマコースを首席で卒業。2009年にジュネーブ音楽院卒業、2013年6月にクロンヘルク・アカデミー修了。パリ管弦楽団をはじめ、国内外の数多くのオーケストラと共演。また、小澤征爾をはじめ、多くの指揮者・演奏家と共演している。国内外での演奏活動を活発に行う傍ら、国際チェロコンクールの審査員としても招聘されている。

宮田大に
聞く!

チェロをはじめたきっかけを教えてください。

父がチェロ、母がヴァイオリンの教師をしていたからです。最初は2歳半からヴァイオリンを始めましたが、ヴァイオリンは立って練習しなければいけなくて、落ち着かなく走り回ってしまっていたため、3歳で座って練習するチェロになりました。

宮田さんが感じるチェロの魅力とは

チェロは人間の声に似ていると言われていて、自分の声がチェロを通じて聴き手に伝わっている感覚になります。

ロストロポーヴィチ国際コンクールで優勝された時は、どのような心境でしたか?

スタートラインにたったのかと嬉しさと不安とが入り混じっていました。これ以前から聴いてくださっていた方と、この時からのお客様が現在もコンサートにきてくださっているのが本当に嬉しいです。

劇場がいま一番聴いてほしいアーティストを迎えてお届けするプレミアム・セレクト・コンサートシリーズ。第9弾となる今回は、あのマエストロ・小澤征爾も絶大な期待を寄せる天才チェリスト、宮田大が宮崎初登場！世界最難関「ロストロポーヴィチ国際チェロコンクール」での日本人初優勝の快挙から約8年。若手No.1と評され、チェリストとして進化し続ける宮田大に、音楽との向き合い方、チェロの魅力、本公演への思いなどについて聞いてみました。

演奏に向かう前に必ず行うルーティンがありますか?

部屋を暗くして、目と額と後頭部に「氣」を送り、丹田に意識を持って行き重心をドシンと下に持っていき作業をします。そうすると舞台上でも地に足が付き、チェロらしい演奏になる気がします。

宮田さんが思ういい演奏とは、どんな演奏ですか?

発表会のように日頃の練習を発表しているような演奏は良くないと思います。練習を積み重ねて、舞台上では、感じたものを今しかできない、今しか再現できない、今しか語れないものを音楽に表して演奏する。それが発表会と演奏会の違いだと思います。

今回のプログラムは、どのような想いで選曲されたのか教えてください。

最初の三曲はフランスの作曲家でまとめ、サン＝サーンスの「白鳥」とフォーレの「夢のあとに」は、新しく出したCDの中にも入っている思入れのある曲です。ドビュッシーの小組曲は、未だかつて誰もこの曲をチェロとピアノでは演奏したことが無いと思います。生のオーケストラでこの曲を聴いた時に、これはチェロで絶対やりたいと思い、今回の為に編曲していただきました！プリテンはイギリスの作曲家で、とても独特な雰囲気を持っており、このチェロ・ソナタで今まで見たことのない世界へお連れできればと思います。後半のフランクのチェロ・ソナタは、2枚目のCDに入っている曲で、今回のピアニストのジュリアンの故郷、ベルギー出身の作曲家です。ジュリアンとはもう8年のコンビになりますが、一番最初に共演した曲がこのフランクのチェロ・ソナタでもあります。

ピアノのジェルネさんとはよく一緒に演奏されていますが、どのようなピアニストかご紹介ください。

彼は伴奏者ではなく、ピアニストであり、アーティストであり、柔軟かつ強い芯のある音楽を持っています。言葉で表現するのは難しいですが、演奏家同志にしかわからない小さなニュアンスがあり、毎回音楽で語り合っている感じがします。いつもお互いに刺激し合うとても良いベストフレンドです。



〈プロフィール〉ジュリアン・ジェルネ (ピアノ)
ベルギー生まれ。幼少よりピアノとヴァイオリンを始める。ピアノとヴァイオリンと室内楽で一等賞を獲得し、ニース音楽院を卒業。同時に和声と伴奏を学んだ。1999年パリ国立高等音楽院に入学しピアノを学び、ピアノと室内楽で一等賞を獲得。2007年エリザベト王妃国際音楽コンクール、セミファイナリスト。リスボン国際ピアノ・コンクールでヴァンドーム賞を受賞。また、フランス財団よりドルエ・ブルジョワ賞とタラツィ賞を授与された。現在、演奏家として幅広く活躍するほか、パリ国立高等音楽院、エコール・ノルマルで後進の指導にもあたっている。

プロの演奏家を目指して頑張っている若者へ、アドバイスをお願いします。

発表会と演奏会の違いについて先ほどお話をいただきましたが、お客様が、またこの人の演奏を聴きたい!と思えるような、自分自身でしか語れない言葉で演奏してほしいと思います。失敗しても、それは今しかできない表現の1つと思い、生のライブでしかできない攻めたクリエイティブな世界を奏でてほしいです。

楽しみにされているお客様へメッセージをお願いします。

今日しか聴けない、今でしか感じられない音楽を会場でお届けできたらと思います。チェロとピアノの対話を楽しみにいらしてください。宮崎は初めて訪れる場所なのでとても楽しみです。

CD INFORMATION

<p>Dai First 発売日2011年12月6日 紹介文大きな話題を呼んだ宮田大のデビューアルバム。多彩な曲目から豊かな感性と確かなテクニックが堪能できます。 収録曲 ・ポッパー：ハンガリア狂詩曲 ・ドビュッシー：チェロ・ソナタ 二短調 ・シュトラウス：チェロ・ソナタ へ長調 作品6 ・ラフマニノフ：ヴォカリーズ ・リムスキー＝コルサコフ：くまばちの飛行</p>	<p>宮田大 ~チェロ~ 合集 発売日2014年12月19日 奏会で弾きこんできた作品を収録。コンサートでも演奏するジュリアン・ジェルネとのフランク「チェロ・ソナタ」(原曲はヴァイオリン・ソナタ)は必聴! 収録曲 ・フランク：チェロ・ソナタ Ⅰ長調(チェロ版) ・ラヴェル：亡き王女のためのパヴァーヌ ・フォーレ：エレジー Op.24 ・黛 敏郎：BUNRAKU チェロ独奏のための (1960) ・尾高尚忠：夜曲 (1942)</p>
<p>木洩れ日 発売日2017年10月11日 親しみやすい愛楽曲を収録した、現在の宮田大を映し出す1枚。 収録曲 ・フォーレ：夢のあとに ・グラスノフ：吟遊詩人の歌 ・フォーレ：シシリエンヌ ・ピアソラ：カフェ1930 ・ピアソラ：グラタンゴ</p>	<p>・サン＝サーンス：白鳥 ・ファリャ：火祭りの踊り ・カッチーニ：アヴェ・マリア ・ブルッフ：コル・ニドライ</p>

公演情報

Premium Select Concert # 9 宮田大 チェロ・リサイタル

2月4日(日) 開場13:30 開演14:00
【会場】アイザックスターンホール

【出演】宮田大(チェロ)
ジュリアン・ジェルネ(ピアノ)
【曲目】サン＝サーンス：動物の謝肉祭より 第13曲「白鳥」
フォーレ：夢のあとに
ドビュッシー：小組曲
プリテン：チェロ・ソナタ 八長調 Op.65
フランク：チェロ・ソナタ Ⅰ長調
【料金】全席指定 一般3,000円[会員2,700円]
ペア割5,000円[会員4,500円]※前売りのみ
U25割1,500円
親子割3,500円※小・中学生+一般
高校生会員1,000円

たなかみおう

田中美央チラシ撮影密着レポート

いま最も注目を集める劇作家・長田育恵が書き下ろす、神楽を題材に宮崎を舞台にした物語『神舞の庭』。主演に迎えるのは、大河ドラマ「おんな城主 直虎」に出演したあの俳優！“六左”の愛称で親しまれる、臆病だが心優しい奥山六左衛門役を好演した田中美央だ。今回、広報用の写真撮影のために来県した田中さんに丸一日密着し、いろんな表情&魅力をキャッチした。文：広報担当



空港で見たおちゃめな一面

11月5日、広報用の写真撮影のために来県する田中美央さんを迎えに、宮崎空港へ向かう。“六左”の顔を頭に思い浮かべながら、いまかいまかと到着を待ち構える。事前情報“身長183センチ”を頼りに探していると、到着ロビーの階段をスーツ姿で下りてくる田中さんを発見。11月5日は、「いい男の日」というらしいのだが、まさに、この日にぴったりな“いい男”、田中さんとの初対面に緊張が走る。「お世話になります。よろしくお祈りします」と、“特茶”のCMナレーションでおなじみの素敵な声が心地いい。スタッフ1人1人に挨拶する田中さんの柔和な表情に、緊張が少し緩んだ。空港を出てすぐ、「1枚いいですか?」。突然の撮影のお願いにも「もちろんです!」とお日様みたいな笑顔で応じてくれる、気さくな人だ。さらに、宮崎空港の名物、ベンチに座る温水洋一さんの銅像の隣でも1枚。「温水さんだあ〜」と、目を閉じて、銅像の温水さんに話しかけるおちゃめな一面も見せてくれた。



宮崎の食や海を体感

『神舞の庭』は、宮崎を舞台にした作品。宮崎の風土を肌で感じてもらいたいと、移動の途中で海を見に行くことに。目の前に眩しく広がる海を見ながら、「うわあ〜、いいですねえ」と、大きな声を出してリラックスした表情になる田中さん。カメラを向けると、長い腕を伸ばして「ハイ、ポーズ!」。やはりチャーミングな人だ。



この日は、夕方の飛行機で東京に戻るため、刻みみのスケジュール。5分足らずで海をあとにし、食事をとることに。ランチは、東京でも好物でよく食べるという、宮崎名物の“チキン南蛮”。テーブルにお皿が運ばれてくると、食べる前からもうすでに美味しそうなお顔の田中さん。



大きな口で頬張ると、「東京で食べていた弁当のチキン南蛮と全然違う、美味しいなあ」と感動しきりで、ペロリと完食した。宮崎の食べ物との相性は間違いなく良さそうだ。食事後は、宮崎市にあるメイクアップスタジオでヘアメイクをしてもらい、さあ準備万端。次はいよいよ、チラシの撮影に!



俳優・田中美央を感じた瞬間

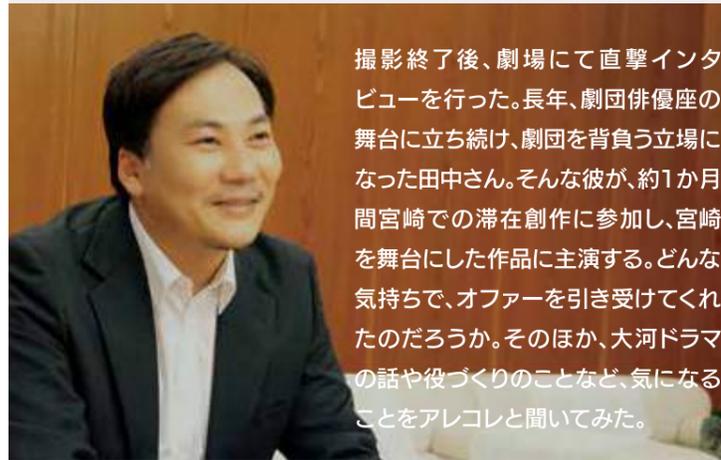
この日の宮崎は、秋晴れ。抜けるような青空と澄んだ空気がすがすがしい、最高の撮影日和だ。現場に到着すると、すでにカメラマンとデザイナーがスタンバイしている。田中さんは、「よろしくお祈りします」と颯爽とスタッフの元へ。すぐに撮影がスタートした。撮影場所は、山に囲まれた家並みを見下ろせる見晴らしのよい高台。カメラマンから身体の向きや表情のオーダーが入ると、瞬時に対応する田中さん。カメラを前にしたときの集中力と、存在感を放つその立ち姿に目が釘付けに。パチンと、“俳優・田中美央”のスイッチが入る瞬間を目の当たりにした。



撮影は順調に進み、あっという間に終了。「近くの畑を見に行きませんか」と声を掛けると、「せっかくなので、歩いて行きましょう」と田中さんから提案を受ける。歩きながら、「なんか元気になるなあ」とポツリ。大根葉の緑が一面に広がる畑を散策しながら、深い呼吸をしていた。まるで宮崎の空気や自然、土の匂いを全身で吸収しようとしているかのような様子だ。



田中美央直撃インタビュー「いまから2月が楽しみで仕方がない。」



撮影終了後、劇場にて直撃インタビューを行った。長年、劇団俳優座の舞台に立ち続け、劇団を背負う立場になった田中さん。そんな彼が、約1か月間宮崎での滞在創作に参加し、宮崎を舞台にした作品に主演する。どんな気持ちで、オファーを引き受けてくれたのだろうか。そのほか、大河ドラマの話や役づくりのことなど、気になることをアレコレと聞いてみた。

今回「神舞の庭」のオファーを受けた時は、どのようなお気持ちでしたか。

最初は、「え?宮崎?何かゆかりがあったかなあ」と考えましたが、おそらく自分の出演した舞台なりドラマを見て、オファーしていただいたと思ったので、率直に嬉しかったですね。大河ドラマの放送が始まって、最初にいただいたお仕事だったので大切にしたいという思いもありました。1年間ずっとドラマをやっていたので、来年はぜひ舞台をやりたいというタイミングでしたし、オファーをいただいて大変光栄でございます。

今年は何んといっても、大河ドラマ「おんな城主・直虎」での“六左”役ですね。大活躍でした。

ずっと舞台を中心にやってきてたんですが、「日本のいちばん長い日」という映画の出演をきっかけに、大河ドラマのオーディションのお話をいただいて。オーディション段階では、何役をやるかは決まっていなかったんですけど、約500人中2人だけが合格。受かった理由を「台詞をきちんと伝えることができていたのが、2人だけだった」と聞いて、正直嬉しかったですね。緊張してたので、その時のことは何も覚えてないんですけど(笑)。これまでテレビの仕事はほとんどしてこなかったから、実は、親から「大河ドラマとか出られないのか」と心配されていたんです。そんな矢先に出演が決まったので、それはそれは、両親ともに大喜びでした(笑)。



NHK大河ドラマ「おんな城主 直虎」で奥山六左衛門役を好演

大河でもその大きな身体とダンディな声が印象的でしたが、幼少の頃からその片鱗はあったんですか。

小さい頃から大きかったです。めちゃくちゃ食べていました。余った給食を全部食べちゃうもんだから、それが問題になって学級会の議題になったこともありました(笑)。声も、小学3年、4年生ぐらいから、親父のふりしてセールスを断っていましたね(笑)。昔の音声テープを聞いたら、もちろん変声期前なので声は高いんですけど、特殊というか低音の管楽器のような声でした。

役作りは、いつもどんな風にされているんですか。

今回は、神楽が題材になっているので、宮崎で実際神楽をやっている人と会えるチャンスがあればお会いしたいですね。いろいろ話を聞いてみたいです。関東で神楽が盛んなところがあったら行ってみたいですし、雅楽をやっている友達がいるので、連絡してみようかなとか…。勉強を口実に、いろんな人に会えたり楽しい経験ができる。こんなに面白い仕事はないと思います。役づくりは、自分に課すというより、それを含めて演劇の楽しみと捉えているところがあります。

田中さんが思う舞台の魅力はなんですか。

自分が舞台を観る時は、人に会いに行くという感覚があるんです。舞台に立つ側も、お客様に会いに行くし、日々変化する“昨日とは違う”共演者に会いに行くという感覚があって、それが舞台の魅力かなと思います。同時に、とっつもしんどい部分でもあり、心が削られる部分でもあるんですが、心を豊かにする部分だとも思います。『神舞の庭』は、1年ぶりのストレートプレイの舞台になりますし、演出家の永山智行さんも共演者も初めての方ばかり。少しびびっています(笑)。

今日1日を振り返っていかがでしたか。

宮崎は自然豊かで本当にいいところですね。自然の恩恵が人間を元気にするんだなと実感しました。撮影自体も楽しかったですけど、これから一緒にやっていくスタッフの皆さんとの連携が初日からこんなに楽しいのかと、いまから2月が楽しみで仕方がないです。



<取材後記>田中美央さんは、誰に対しても自然体で、すぐその場の環境に溶け込んでいた。そんな田中さんに、普段大切にしていることを聞くと、「知ったかぶりをしないこと」と答えが返ってきた。知ったかぶりをしないことが、新しい現場を楽しむコツ、人生を豊かにするコツだという。その話を聞いて、「芸は人なり」という言葉を思い出した。いま注目の俳優・田中美央が、どんな風に宮崎の男を演じるのだろうか。実直に生きる田中さんと、演出家や共演者がおこす化学反応を早く見たいと思う。密着してみて、さらに作品づくりが楽しみになった。

演劇のココに注目

今、間違いなく、日本で一番注目されている劇作家・長田育恵氏を迎えました。いま、その確かな筆致と宮崎が出逢うトキ、その響きをぜひ!

公演情報	「新 かぼちゃといもがら物語」#2 『神舞の庭』
2月28日(水)~3月4日(日) [5日間開催(5ステージ)]	
平日(2/28~3/2) 開場18:30 開演19:00	
土・日(3/3~3/4) 開場13:30 開演14:00	
【会場】イベントホール *終演後アフタートークあり	
【作】長田育恵	【演出】永山智行(劇団こぶく劇場)
【出演】田中美央(俳優座) 内田淳子 実広健士(ぐるーぷ連)	
松本哲也(小松台東) 古賀今日子 森岡光(不思議少年)	
片淵高史(宇都宮企画) 成合朱美(劇団SPC)	
【料金】全席自由・日時指定	
一般3,500円[会員3,100円] U25割1,500円	
ペア割6,000円[会員5,400円]*前売りのみ	

木管楽器の魅力

～宮崎出身のオーケストラプレイヤーによる～

当劇場音楽事業アドバイザー・桐原直子の分かりやすいお話と共に、気軽に音楽を楽しんでいただく大人のためのコンサートシリーズ第6弾！今回の主役は“木管楽器”です。宮崎出身の実力派演奏家を迎えてお届けします。公演に先駆け、出演者からコンサートの聴きどころや、楽器紹介コメントが届きました。

Message 桐原直子（企画・構成／音楽事業アドバイザー）（ご案内／フルート）



毎回テーマを決めて、よりクラシック音楽を楽しんでいただこうと始まったこのシリーズも6回目を迎えました。今回は「宮崎出身のオーケストラプレイヤー」として、40年以上九州交響楽団に在籍し、経験豊富な永田明さん（フルート）。日本を飛び出して歴史あるザルツブルク・モーツァルテウム管弦楽団で活躍中の黒木綾子さん（ファゴット）。日本やドイツのオーケストラで活動し成長し続ける日高慧さん（オーボエ）。この3人を中心に、ソロやアンサンブルの演奏を、宮崎大学准教授・阪本幹子さん（ピアノ）とともにお届けします。演奏に機動力（速いパッセージ）が求められる木管楽器。コンサートでは、演奏だけでなく楽器やオーケストラにまつわる面白いお話なども伺えそうです。個性豊かな演奏者に会いに、ぜひ会場にお越しください。

出演者10秒紹介

「宮崎県民はのんびりして…」よく聞く言葉です。しかし、彼女に限ってはどこ吹く風。自分の道を切り拓く、その才能、努力、そして勇気と情熱には感服します。成長した彼女の演奏が楽しみです。



出演者10秒紹介

私より年上なのに、常に若々しい永田さん。アイデアマンであり、今の「なるクラ」の基礎を教えていただきました。宮崎での最初のオーケストラプレイヤーとして、次世代に影響を与えていただけたと思います。



出演者10秒紹介

日本に限らずドイツの環境に身を置き、クラシック音楽の本質とは…と問い続けている日高さん。これからどこに行き、どんな風に成長するか見守りたいと思います。「なるクラ」は、2度目の出演です。



出演者10秒紹介

こんなに行動力があり、しっかりされている方を見たことがありません。素敵な演奏を支えているのは、美味しいものが大好きなグルメのおかげかもしれません。体力を見込んで、たくさんピアノを弾いていただきます。



Message 阪本幹子（ピアノ）

ピアノはたくさんの音を鳴らせる楽器ということもあって一人で演奏する機会が多いのですが、他の楽器とのアンサンブルでは、一緒に演奏する楽器に溶け込むようなピアノの音色を考えたり、逆にピアノ独自の音色を際立たせて立体感のある響きをイメージするなど、いろいろな音の融合を楽しめるのが醍醐味です。様々な木管楽器の響きをご堪能いただくと共に、木管楽器とピアノの響き合いも是非、お楽しみいただければと思います。

Message 黒木綾子（ファゴット）

ザルツブルクのオーケストラに移籍して、早くも2年半が経とうとしていますが、今回はそれ以来初めての日本でのコンサートです。生活環境が様変わりし、音楽の捉え方も自ずと大きく変化してきました。私自身、演奏する上での「音楽の楽しみ方」がようやくわかってきました。今回は宮崎にゆかりのある共演者とともに、お客様と楽しい時間を共有したいと思っています。温かい音色の木管楽器、そしてファゴットの魅力を存分にお伝えしたいです！

Message 永田明（フルート）

オーケストラに魅せられ内外で演奏活動をする木管楽器の仲間達、それも同郷とあってどんな音楽が生み出されるのか期待に胸がふくらみます。典雅で哀愁を帯びたイタリアバロックの巨匠ヴィヴァルディから近代イギリスの女流作曲家ドリング、そして近代フランスの奇才ブランクにいたるまで変化に富んだ演奏が繰り広げられることでしょう。音楽が取り持つ出逢いに心から感謝です、もちろん聴きに來てくださる皆さんとの出逢いにも……。

Message 日高慧（オーボエ）

今回演奏するブランクのトリオは、オーボエ奏者にとって大切なレパートリーでこれまでに何回も演奏していますが、毎回曲の素晴らしさに圧倒されます。少し斬新な響きのピアノの前奏に始まり、ファゴット・オーボエそれぞれのカデンツ風のソロから三人の掛け合いが進んでいきます。楽器の組み合わせによってもガラッとイメージが変わる木管楽器のアンサンブルの魅力をきくと感じていただけるコンサートになると思います！

はじめのきっかけ

打楽器、ホルンを経て、中学2年生の時に出会いました。理由はたくさんありますが、中でも「柔らかな音色」「あまり人のやっていない楽器」という希望を満したのがファゴットでした。

ファゴットってどんな楽器？

イタリア語で「薪の束」を意味するファゴット、英語ではバスーンとも言います。楽器は楓（メイプル）、リードは葦から出来ています。木管楽器の中で最も長く、全長は約260cm、組み立てた長さは約135cmあり、重さは約3.5kg。10本の指全てを使う唯一の管楽器であり、左手の親指だけで10個のキイを操る、とても運指の複雑な楽器です。S字に曲がった「ボーカル」と、その先端につける「リード」が吹奏感や音色を大きく左右します。リードは完成まで約2か月をかけて手作りしています。

注…ファゴットは一般的に5つのパーツから成り、組み立てると2本の管が束ねられた形になります。



はじめのきっかけ

高校入学まで音楽と全く無縁だった私は何故か合唱部に…。そこでピアノと出会い自己流ながら猛練習、されど限界を知らされフルートへ。

フルートってどんな楽器？

金属製が多いため何故か金管楽器と勘違いする人も…。フルートは、有史以前から存在する木管楽器の仲間のひとつです。笛の音が国民性に合うのか、日本のフルート人口は管楽器の中で群を抜いています。フルートにはバロックから現代に至るまで数多くの作品があるのも魅力です。オーケストラの中では重厚な弦楽器、パワフルな金管楽器や打楽器に対して、木管楽器は色彩に深く関わるセクションと言えます。繊細なイメージを与えるフルートですが、時にオーケストラの中で力強くきらびやかなソロを奏することもあります。今回はフルートの仲間、ピッコロも登場します。愛らしい音色にも注目、いや耳を傾けていただきたいと思います。



オーボエってどんな楽器？

「高い音の木」、仏語のhautbois（オーボワ）に由来し、声で言うソプラノの音域を奏でます。オーケストラがチューニングをするときには基準となる音を出し、白鳥の湖の「情景」など、ここぞという場面では叙情的な音色が活躍します。楽器の先には二枚の葦を重ねたリードと呼ばれる発音体があり、これは奏者自身の手作りです。演奏の良し悪しを大きく左右するのがこのリードで、気温や湿度にも大きく左右されるため、練習とは別に準備に多くの手間を必要とします。

はじめのきっかけ

小さい頃からピアノを習っていましたが、他の楽器もやってみたくて思い始めた中学生の頃にオーボエに出会いました。音色もさることながら楽器の見た目の美しさにも惹かれました！



シリーズ（大人のためのコンサート～なるほどクラシック講座）
公演情報 vol.6 「木管楽器の魅力」
～宮崎出身のオーケストラプレイヤーによる～

1月27日（土）【会場】イベントホール

【出演】黒木綾子（ファゴット） 永田明（フルート）
日高慧（オーボエ） 阪本幹子（ピアノ）
桐原直子（フルート・ご案内）

■ランチタイム・コンサート～気軽に楽しむお昼の60分～

開場11:00 開演11:30（60分公演・休憩なし）
【料金】全席自由 一般1,000円[会員800円]

■ソワレ・コンサート～じっくり楽しむ夜の100分～

開場18:30 開演19:00（100分公演・休憩あり）
【料金】全席自由 一般2,000円[会員1,800円]
U25割1,000円
親子割2,500円※小・中学生＋一般

●都城公演

1月28日（日）【会場】都城市総合文化ホール 中ホール
開場13:30 開演14:00（100分公演・休憩あり）
【料金】一般2,000円 学生1,000円※高校生以下
親子割2,500円※学生（高校生以下）＋一般

チケット発売中

2月17日(土)

開場12:30 開演13:00
開場17:30 開演18:00

イベントホール

'17みやぎの舞台芸術シリーズIV
サラみやぎき『うまれたまちで』



原作:坂本光三郎 作:やぐちむつみ
演出:谷口ろくぞう 楽曲制作:猪野秀史
出演:池田知聡(サラみやぎ校長・声の劇団イメージ)
松本みさと 川端大貴 こはる
金丸朔日(劇団SPC) 菅田健次
新納愛未(超時空劇団☆異次元中毒)
重田充彦(サラみやぎ) 中武悟(劇団一演)
サラみやぎ所属メンバー
全席自由 一般2,000円 U25割1,000円

Attention(ご注意)

- ◎記載情報は変更になる場合があります。
- ◎割引サービスの詳細は、劇場HPをご覧ください。
- ◎当日券が出る場合は、一般チケットのみ500円増になります。※一部公演除く
- ◎託児サービス(有料・事前申込制)をご利用いただけます。※一部公演除く

12月23日(土・祝)

開場16:30 開演17:00

アイザックスターンホール

小曽根真 featuring No Name Horses

出演:小曽根真(ピアノ) No Name Horses(ビッグバンド)
全席指定 S席完売 A席3,000円[会員2,700円] U25割1,500円※A席のみ
ペア割完売 親子割3,500円※小・中学生+一般、A席のみ 高校生会員1,000円※A席のみ

チケット残席わずか

1月27日(土)

ランチタイム・コンサート

開場11:00 開演11:30

ソフレ・コンサート

開場18:30 開演19:00

イベントホール

シリーズ<大人のためのコンサート~なるほどクラシック講座>vol.6

木管楽器の魅力~宮崎出身のオーケストラプレイヤーによる~

出演:黒木綾子(ファゴット) 永田明(フルート) 日高慧(オーボエ) 阪本幹子(ピアノ)
桐原直子(フルート・ご案内)

○ランチタイム・コンサート~気軽に楽しむお昼の60分~(途中休憩なし)

全席自由 一般1,000円[会員800円]

○ソフレ・コンサート~じっくり楽しむ夜の100分~(途中休憩あり)

全席自由 一般2,000円[会員1,800円] U25割1,000円 親子割2,500円※小・中学生+一般

都城公演 1月28日(日) 開場13:30 開演14:00(100分公演) 会場:都城市総合文化ホール

詳細はP5・6▶▶▶

チケット発売中

2月4日(日)

開場13:30 開演14:00

アイザックスターンホール

Premium Select Concert #9 宮田大 チェロ・リサイタル

出演:宮田大(チェロ) ジュリアン・ジェルネ(ピアノ)

全席指定 一般3,000円[会員2,700円] ペア割5,000円[会員4,500円]※前売りのみ U25割1,500円
親子割3,500円※小・中学生+一般 高校生会員1,000円

詳細はP1・2▶▶▶

チケット発売中

2月24日(土)

開場10:30 開演11:00

アイザックスターンホール

おんがくのおもちゃ箱シリーズ Part.6

「もうすぐ春だよ!全員集合!」

出演:浜砂なぎさ(チェロ) 黒木奈津季(ピアノ) 大西映光(ベース) 衛藤和洋(ドラム)
伊豆謡子(司会・進行・歌)

全席自由 4歳未満無料 4歳以上500円 なかよしチケット700円※4歳以上2人1組、前売りのみ

0歳から入場できるコンサート

チケット発売中

2月28日(水)~
3月4日(日)

【平日】開場18:30 開演19:00
【土・日】開場13:30 開演14:00

イベントホール

「新 かぼちゃといもがら物語」#2 『神舞の庭』

作:長田育恵 演出:永山智行(劇団こぶく劇場)

出演:田中美央(俳優座) 内田淳子 実広健士(ぐるーぷ連) 松本哲也(小松台東)

古賀今日子 森岡光(不思議少年) 片瀬高史(宇都宮企画) 成合朱美(劇団SPC)

全席自由 一般3,500円[会員3,100円] ペア割6,000円[会員5,400円]※前売りのみ U25割1,500円

詳細はP3・4▶▶▶

チケット発売中

3月10日(土)

開場10:30 開演11:00

アイザックスターンホール

パイプオルガン プロムナード・コンサート vol.158

「オルブラ」土曜日の朝はオルガンでランチを...

出演:堀切麻里子(オルガニスト) 伊豆謡子(ご案内)

全席自由 一般500円 なかよしチケット700円※4歳以上2人1組、前売りのみ [4歳から入場できます]

チケット発売中

劇場を利用しよう! ~はじめての『練習室』編~

●そもそもどんな練習室があるの?



大練習室×2



中練習室×4



小練習室×4

劇場の地下には、さまざまな用途で利用できる練習室が10室あります。オーケストラがそのまま入れる大練習室や個人でゆっくり練習できる小練習室、演劇やダンス向けの鏡張りの中練習室もございます。

●どうやって借りたらいいの?

お電話、または窓口で 貸出受付をしています。

お気軽にお問合せください!

貸館専用 ☎0985-28-3228 (受付時間9:00~21:30)



●どんなことを聞かれるの? 確認が終わったら、予約完了です!



◀ どんな内容でのご利用ですか? ※楽器の練習、ダンスetc

◀ いつ、何人ぐらいでご利用されますか?

◀ 使いたい練習室&備品(ピアノ等)は?

◀ お客様のお名前/ご連絡先/ご住所等

練習室を利用したい度チェック✓

- 周りを気にせず大きな音で演奏したい
- 鏡に全身を映して踊りたい、演じたい
- 一人で集中して練習したい
- 合唱など大人数で集まって練習したい

●使用料はどのぐらいかかるの?

お部屋の種類、時間区分(午前・午後・夜間)で料金が変わります。利用時間には、準備から後片付けの時間も含まれます。別途料金はかかりますが、ピアノやドラムなど備品の貸出もしております。

	9時	12時	13時	17時	18時	22時
	午前 (3時間)	午後 (4時間)	午後 (4時間)	夜間 (4時間)	夜間 (4時間)	夜間 (4時間)
大練習室	2,880円	3,700円	3,700円	3,700円	3,700円	3,700円
中練習室	2,060円	2,670円	2,670円	2,670円	2,670円	2,670円
小練習室	820円	1,020円	1,020円	1,020円	1,020円	1,020円

●利用当日までにすることは?



① 予約時から当日ご利用前までに利用料金のお支払をお願いします。

② 年に1回更新する施設利用の許可申請書への記入をお願いします。(記入に要する時間は、5分程度です)